

自殺総合対策大綱にある世代の特徴と 身近なハイリスク者対策

世代	世代の特徴(大綱による)	ハイリスク者対策
青少年 (30歳未満)	精神的な安定を損ないやすい	成長過程で危機を経験してきた人たちへの支援
中高年 (30歳～64歳)	家庭や職場などで重要な役割を占める一方、心理的にも、社会的にも負担を抱える	危機の重なっている人たちへの支援
高齢者 (65歳以上)	慢性疾患、身体的機能の低下に伴う社会や家庭での役割の喪失	生きがい・健康づくり

「基礎調査」から見えてきた 自殺予防の介入ポイント

	青少年(30歳未満)	中高年(30～64歳)	高齢者 (65歳以上)
特徴と 問題点	<ul style="list-style-type: none"> ●学校・家庭での様々な問題(不登校・いじめ・親との離別など) ●早期発症の精神障害による社会参加困難 ●精神科治療薬の誤用 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会的問題(借金)を抱えた人の背景にアルコール問題 <ul style="list-style-type: none"> ➢アルコールによる不眠への対処 ➢アルコール問題とうつ病の合併 ➢アルコール問題に対する援助を受けていない 	<ul style="list-style-type: none"> ●精神科受診率が低い
介入ポ イントと 対策	<ul style="list-style-type: none"> ●教育機関と保健機関・精神科医療機関との連携促進による早期介入 ●精神科治療薬の適正使用のための対策 ●精神障害者の家族支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域保健・産業保健領域で、うつ病だけでなくアルコール問題も含めた、メンタルヘルスプロモーション推進 ●精神科医のアルコール問題に対する診断・治療能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ医のうつ病に対する診断・治療能力の向上、および精神科受診の促進